# 荷物が増えても困らない、これからを見据えた倉庫へ

## ――倉庫の高さを活かした保管改善事例

2026 年 10 月 23 日

「まだ置ける」 そう思っていた倉庫が、気づけば未来を塞いでいた。

「私たちはプラスチック製品の加工・販売を手掛けています。製品は増え続ける一方で、保管方法はパレットへの床置き。積み上げるほど通路は狭くなってくる中で、このままでは荷物が増え続ける時、置き場所がなくなる。そんな危機感が改革の始まりでした」

目を付けたのは、床と違い余白がたくさんある縦空間。それを形にしたのが、

―― パレットラックの導入である。

1 台しかなかったパレットラックを・・・

床ではなく『空間』を使うという発想は、倉庫の高さを最大限に発揮させ、収納力の向上に貢献。乱雑だった保管状態は一変し、必要な製品がすぐ見つかる、通路にもゆとりのある倉庫となった。これは保管量が増えたのではなく、現場にこれから増える荷物を受け入れる『余裕』と『安心』が生まれたと言える。

倉庫改革とは、単に棚を増やすことではないのだ。会社の未来を支える「成長の余白」をつくること。その一歩が、環境を、そして働き方を変えていく。